1953年より1962年にいたる名古屋市立大学泌尿器科 教室の外来入院患者及び手術術式の推移

名古屋市立大学医学部泌尿器科教室
(主任: 岡直友教授)

教授 岡 直 友
助教授 筧 鎮 郎
講師 杉 浦 式
助手 加 藤 董

STATISTICAL SURVEY ON OUTPATIENTS, INPATIENTS AND OPERATIONS IN THE UROLOGICAL DEPARTMENT ON NAGOYA CITY UNIVERSITY MEDICAL SCHOOL FROM 1953 TO 1962.

Naotomo Oka, Yasuo Kakehi,
Hajime Sugiura and Isao Kato.

From the Department of Urology, Nagoya City University Medical School.
(Director: Prof. N. Oka)

I. 緒言

1953年著者の1人岡が名古屋市立大学医学部泌尿器科教室を担当して以来10年を経過した。この間に泌尿器科教室は皮膚科教室より分離独立し、教室員を挙げて泌尿器科学の研究に努力して来た。こゝに当教室の10年間の外来患者及び入院患者に対する統計的観察を試みるのも、泌尿器科の動向の一部を知るものとして意義あるものとする。

II. 外来患者

1953年(昭和28年)より1962年(昭和37年)迄の満10年間に名古屋市立大学泌尿器科外来を訪れた新来患者総数は男女合計 10062名で、その中男子6552名、女子3510名で男女の比は1.87 : 1である。

1. 年度別観察

1953年より1962年迄の各年度別に於ける外来患者数、性別及び男女の比は第1表の如くである。1953年は新来患者 827名に過ぎなかつたが漸次増加を示し、1958年、1959年は稍々減少、その後再び増加し、1962年は1200名を突破するに到つた。

2. 主要疾患の推移

外来患者 10032名を尿路生殖器結核、尿路結石症、非結核性膀胱炎、膀胱腫瘍、淋疾、前立腺腫瘍及びその他の疾患

第1表 外来患者年度別総数(1953—I~1962XII)

年度 \ 性	男	女	計	男 : 女
1953	553	274	827	2.02 : 1
1954	622	270	892	2.30 : 1
1955	651	283	934	2.30 : 1
1956	705	318	1023	2.22 : 1
1957	678	342	1020	1.98 : 1
1958	585	386	971	1.52 : 1
1959	600	361	961	1.91 : 1
1960	657	393	1050	1.92 : 1
1961	763	373	1136	2.05 : 1
1962	735	510	1248	1.45 : 1
計	6552	3510	10062	1.87 : 1

として概観してみた。各年度別の患者実数及びその年度の外来患者数に対する百分率を第2表に示し、各年度別実数及び各年度別百分率を第1及び第2図に図示した。

尿路生殖器結核は、実数は増加の傾向を示し、1955年を最高とし漸時減少している。しかし百分率では1953年5.8%より年々低下し1962年では2.2%となつている。

尿路結石症は数、百分率共1958年を境として増加しているが1962年には両者ともやや減少している。

第2表 外来患者主要疾患の推移 (1953~1962)

年 度	外来患者 総 数	結 核	結 石	膀 胱 炎	膀胱腫瘍	淋 疾	前立腺腫瘍	そ の 他
1953	827	48 (5.8%)	64 (7.7%)	114(13.7%)	10 (1.2%)	51 (6.2%)	26 (3.1%)	514(62.3%)
1954	892	49 (5.5)	68 (7.6)	158 (17.7)	8 (0.9)	49 (5.5)	16 (1.8)	544 (61.0)
1955	934	52 (5.6)	72 (7.7)	173 (18.8)	8 (0.9)	47 (5.0)	18 (1.9)	564 (60.1)
1956	1023	40 (3.9)	106 (10.4)	166 (16.2)	11 (1.1)	37 (3.6)	24 (2.3)	639 (62.5)
1957	1020	35 (3.4)	101 (9.9)	192 (18.8)	4 (0.4)	33 (3.2)	24 (2.3)	631 (62.0)
1958	971	42 (4.3)	88 (9.1)	175 (18.0)	14 (1.4)	18 (1.9)	35 (3.6)	599 (61.7)
1959	961	33 (3.4)	129 (13.4)	213 (22.1)	7 (0.7)	9 (0.9)	28 (2.9)	542 (56.6)
1960	1050	39 (3.7)	142 (13.5)	189 (18.0)	19 (1.8)	13 (1.2)	52 (5.0)	596 (56.8)
1961	1136	32 (2.8)	147 (12.9)	226 (19.9)	15 (1.3)	11 (1.0)	48 (4.2)	657 (57.9)
1962	1248	28 (2.2)	140 (11.2)	289 (23.2)	21 (1.7)	11 (0.8)	38 (3.0)	721 (57.9)
計	10062	398 (4.0)	1055 (10.5)	1895 (18.8)	117 (1.2)	279 (2.8)	309 (3.1)	6009 (59.6)

第1図 外来主要疾患年度別実数

非結核性膀胱炎は実数、百分率共に漸時増加の傾向にある。

膀胱腫瘍は実数ではやゝ増加の傾向にあるが百分率では各年共に平均化されその10年間の平均値は 1.2%となっている。

淋疾関係患者は実数、百分率共に1953年51名、 6.2%より1962年11名、 0.8%と激減している

前立腺腫瘍は膀胱腫瘍とほぼ同様な傾向を示し過去10年間では一進一退で年平均 3.1%となっている。

次にこれら二、三の疾患について詳細に観察してみる。

3. 尿路器結核

第2図 外来主要疾患年度別百分率

尿路器結核の傾向は先に述べた通りであるが、その種類、男女別については第3表に示す。次に尿路器結核患者実数とその外来患者に対する百分率を第3図に示す。これより尿路器結核患者の百分率では 5.8%より 2.2%に減少を示し、腎結核も 3.0%より 1.5%に減少している。此の事実は強力な化学療法の出現によるものかも知れない。

4. 尿路結石症

第4表は尿路結石症の概要を示したもので、その実数は1953年より漸増を示しているが百分率では1953年より1955年迄は 7.7%で著明な変化はないが1956年より増加が著明になり1960年は13.5%をしめている。また1960年には尿管結石が著しく増加しているがその後はやゝ減少

第3表 外来結核患者年度別実数

	1953		1954		1955		1956		1957		1958		1959		1960		1961		1962		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
腎・膀胱結核	8	17	16	6	20	10	12	9	17	9	18	13	17	9	12	12	14	8	10	9	144	102
	25		22		30		21		26		31		26		24		22		19		246	
膀胱結核	6	4	2	2	1	0	1				1	1	1		1		1				13	7
	10		4		1		1				1		1		1		1				20	
副睾丸結核	7		15		15		14		5		8		4		9		4		5		86	
前立腺結核	1				3		1		1				1		2		4		3		16	
精索結核	3		1		1		3				1				2		1		1		13	
尿道結核									1												1	
精囊結核			1		1				1				1		1						5	
陰莖結核疹	2		6		1				1		1										11	
計	27	21	41	8	42	10	31	9	26	9	28	14	24	9	27	12	24	8	19	9	289	109
	48		49		52		40		35		42		33		39		32		28		398	

第3図 尿路性器結核患者実数及び百分率（上）と腎結核患者実数と百分率（下）

の傾向にある。

5. その他の疾患

先に述べた尿路性器結核，尿路結石を除外した外来患者については主として疾患別に分類表示した。

(1)奇形及び發育異常については特に増減を示したものは認められない。遊走腎 337例，50.6%，包莖20例 30.2%でこの両者が過半数を占めている（第5表），

(2)非結核性炎症については膀胱炎及び尿道炎がその過半数を占め，膀胱炎は先に述べた通り漸次増加の傾向を示すも，尿道炎は淋疾の減少と共に漸次低下している。（第6表）

(3)腫瘍疾患は第7,8表に示す如く前立腺腫瘍，膀胱腫瘍が最も多い。その年度別による推移は前述した。良性腫瘍中貯溜腫では陰嚢水腫が圧倒的に多い。（第7表，第8表）

(4)後天性形態異常は第9表に示す如く尿道狭窄が多い。

第10表は外傷を示したものであるが特記すべき事はない。

第11表は機能障害疾患を表示したもので，夜尿症及び神経性頻尿が多いがその年度別推移はほぼ一定している。

第12及び13表はその他の疾患について示したものであるが特記すべきものはない。

III. 入院患者

1953年より1962年迄の満10年間の入院患者総数は1181名であり，その主要疾患別，臓器別の統計は次の各表に示す通りである。名古屋市立大学泌尿器科教室ではその外来患者が年々増加し，1953年に比し1962年は約1.6倍に増加している。

1. 主要疾患

入院患者の腎結核，尿路結石，膀胱腫瘍，前立腺腫瘍，遊走腎及び水腎症についての推移は第14表の如くである。

第 4 表 外来尿路結石患者実数

	1953		1954		1955		1956		1957		1958		1959		1960		1961		1962		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
腎 結 石	5	1	4	5	13	4	12	3	10	6	1	6	13	10	15	10	17	6	15	4	105	55
	6		9		17		15		16		7		23		25		23		19		160	
尿管結石	23	5	13	7	21	4	46	11	37		47	14	56	13	79	15	70	20	52	17	444	106
	28		20		25		57		37		61		69		94		90		69		550	
上部尿路 結石の疑い	5	12	15	10	10	6	13	8	18	12	5	6	16	11	9	4	19	7	25	17	135	93
	17		25		16		21		30		11		27		13		26		42		228	
膀胱結石	10	1	11	2	8	1	11		14	1	6		5		3	2	6		8		82	7
	11		13		9		11		15		6		5		5		6		8		89	
尿道結石	2		1		5		1		2		2		2		2		1		2		20	
前立腺結石							1		1		1		1		3		1				8	
計	45	19	44	24	57	15	84	22	82	19	62	26	93	34	111	31	114	33	102	38	794	261
	64		68		72		106		101		88		129		142		147		140		1055	

第 5 表 外来奇形及び發育異常疾患患者数

器 官	病 名	1953	54	55	56	57	58	59	60	61	62	計
腎	發育不全		1				1				1	3
	重複腎盂尿管	1	1	1	1		1	2	3	1	3	14
	馬蹄腎				1		1					2
	腹部変位							1		1	2	4
	遊走腎	9	24	18	29	34	45	40	56	47	35	337
	尿管欠如				1							1
尿 管	尿管狭窄					1						1
	尿管水瘤									1		1
	開口異常										2	2
膀 胱	下垂			1								1
	憩室									2	1	3
尿道	下裂	4		2	2	1	2		1	5	5	22
	弁膜									1		1
	上裂									1		1
	その他		1	4		2		1				8
陰茎	包莖	24	22	26	29	14	7	12	18	20	29	201
	發育不全					1	1	1	1	1		5
	半陰陽								2		1	3
辜丸	潜伏辜丸	1	3	1	1	3	3	5	5	4	5	31
	發育不全	4			2	1	3	4	3	1	1	19
	その他				1				2	1	2	6
	計	43	52	53	67	57	64	66	91	86	87	666

第6表 外来非結核性炎症患者数

器 官	病 名	1953	54	55	56	57	58	59	60	61	62	計
腎	腎 炎		1			2	3	6	6	6	9	33
	腎盂腎炎	1				2		7	4		9	23
	腎盂炎	1	1				1			5	4	12
	腎周囲炎				1		1			1	1	4
	膿腎症						3	1		2		6
	その他								1			1
膀 胱	膀胱炎	111	155	166	164	191	172	212	184	221	284	1860
	膀胱周囲炎	3	3	7	2	1	3	1	5	5	5	35
尿 道	淋 疾	51	49	47	37	33	18	9	13	11	11	279
	単純性尿道炎	64	62	70	70	82	69	49	49	46	25	586
	後部尿道炎	3		4	2	2	2	1	3	1	4	22
	尿道周囲炎	5	6	1		2	2	1	1	2		20
	副尿道炎	1		4	2	3	1					11
陰 茎	亀頭包皮皮炎	26	26	23	25	32	22	16	9	26	16	221
辜 丸	辜丸炎		2	5	1	1	6	1	3	1		20
副辜丸	副辜丸炎	17	19	19	30	22	23	15	20	13	6	184
前立腺	前立腺炎		5	10	11	15	7	5	9	18	9	89
精 囊	精囊炎	7	9		8	8	10	8	7	15	8	80
その他									1			1
女 子	外陰炎	7	7	4	6	4	4	5	3	3	10	53
	計	297	345	360	359	400	347	337	318	376	401	3540

第7表 外来腫瘍疾患患者数(1)

器 官	病 名	1953	54	55	56	57	58	59	60	61	62	計
腎	Grawitz	2	1		4	4	6	2	3	5	2	29
	囊胞腎	1	2	2		2	2					9
	孤立腫						1					1
腎 孟	乳頭腫	3	3			4			8			18
尿 管					1		1					2
膀 胱	乳頭腫			1	2		3	2		5	4	17
	一次癌	7	7	5	6	4	8	5	13	8	13	76
	二次癌	3	1	2	3		3		6	2	4	24
尿 道	カルンケル	1	1	2	1	3	4	6	8	11	11	48
	乳頭腫	3	3	1	3	2	3		1	1	1	18
辜 丸	辜丸腫瘍	2	1	1	1	1	3	1	2	1	2	15
前立腺	前立腺肥大	26	16	18	24	24	33	27	49	46	36	299
	前立腺癌						2	1	3	2	2	10
尿 道	癌			2					1	1		4
精 索	静脈瘤		1	2		1	1	2	1		2	10
その他						1				1	2	4
腹 部	腫 瘍	7	1	1	1	4		3	4	3	4	28
計		55	37	37	46	50	70	49	99	86	83	612

第8表 外来腫瘍疾患患者数(2)

器 官	病 名	1953	54	55	56	57	58	59	60	61	62	計
腎・尿管	水腎症	3		3	3	8	7	12	4	12	6	58
	水尿管症	1	1			1				2		5
性 器	陰囊水腫	13	16	10	18	12	14	8	18	18	12	139
	精索水腫		2	3	1		3	2	2	2		15
	精液瘤	2	1	4	4	2		1	1	2	3	20
	陰莖部水腫			1		1				1	1	4
	腎周囲水腫								1			1
計		19	20	21	26	24	24	23	26	37	22	242

第9表 後天性形態異常疾患患者数

器 官	病 名	1953	54	55	56	57	58	59	60	61	62	計
尿 管	狹 窄	1		2	2	4	1	3	3			16
	閉 鎖				1	1	1			1		4
	腔 瘻	1	4	6	3	4		3		3		24
	その他						1	1				2
膀 胱	膀胱腔瘻	3			2	1	2		1	3	3	15
	〃 腸瘻	1				2					1	4
	萎縮膀胱		1									1
	膀胱腔直腸瘻				1	2						3
	その他					1				1		2
尿 道	狭窄(外傷)	3	1	1	1	2	1	2	2	2	1	16
	(炎症)	13	7	7	5	3	7	10	8	10	11	81
	(不明)							1				1
	尿道瘻	1	1	1		1	2					6
	〃 直腸瘻					1		1			1	3
	〃 腔 瘻			1								1
性 器	精管閉鎖				1							1
	嵌頓包莖	7	4	2	3			1			2	19
計		30	18	20	19	22	15	22	14	20	19	199

第10表 外来外傷性疾患患者数

器 官	病 名	1953	54	55	56	57	58	59	60	61	62	計
腎	腎外傷	1	1		1				2	1		6
尿 道	尿道外傷	1	1	1	1	2	3	3	4	2	5	23
性 器	陰囊内〃	4	1	3	5	4	2	5	5	1	2	32
	陰莖 〃		1	1					1			3
女 子	外陰部〃		1	1	1					1		4
計		6	5	6	8	6	5	8	12	5	7	68

第11表 外来機能障害疾患患者数

器 官	病 名	1953	54	55	56	57	58	59	60	61	62	計
腎	無 尿	2	1			4	1		1		2	11
	乏 尿		4				1		1		3	9
尿 管	痙 攣		1	1								2
膀 胱	排尿困難(中枢性)	2		2	1	1	2	1	2	4	6	21
	〃 (末性梢)	7	4	2	3	7	3	6	2	4	3	41
	尿閉 (中枢性)		1		1	1			1	3	6	13
	〃 (末梢性)		4	2	3	3	1	4	4	8	3	32
	〃 (原因不明)	3										3
	尿失禁	2			2	4	2		2	3	3	18
	奇異性尿失禁			5		2	1	1	3	2		14
	遺尿症	18	14	17	17	17	16	14	16	11	18	158
	神経性頻尿	33	37	35	32	41	38	34	30	30	26	336
	膀胱頸部疾患			2		1	2			4	6	15
性 器	陰 萎	5	2	5	8	8	4	3	3	3	7	48
	夢 精			3	1			2		1	2	9
	早 漏	2	2				3			1		8
	精液漏	1	1	1			1		1			5
	前立腺液漏					2				1		3
	陰莖強直症		1				1				1	3
	性的神経衰弱					2	1					3
	異常なきもの	1		4	5	8	2	3	5	5	9	42
不妊症	無精子症		1	2	3	2	3	3	3	6	8	31
	精子減少症							1			4	5
	無精液症					1						1
	その他									1	1	2
計		76	72	82	76	104	80	74	74	87	108	833

第12表 外来その他の疾患(1)

器 官	病 名	1953	54	55	56	57	58	59	60	61	62	計
尿	塩 尿	4	4	7		6	5	6		2		34
	蛋白尿	1	1	1		2			1	3	4	13
	乳糜尿		2	1					2	1	2	8
腎	特発性腎出血	7	8	4	4	5	9	9	7	14	12	79
	腎切除後	12	10	9	10	13	12	8	13	3	6	96
	腎性高血圧									1	1	2
尿 管	白板症											
膀 胱	異 物				1		2		1	2	3	9
	出 血				1	1	2				1	5
尿 道	異 物					2				2	1	5
	出 血	1	1	3	4	1	3	2	3	6	2	26

性 器	陰莖炎	1										1
	陰莖硬結			1								1
	睪丸痛	1	2	3	4	1	1	2	1	2	1	18
	睪丸捻転症					1		1	2	1		5
	睪丸その他					1						1
	副睪丸結節	1										1
	血精液症			1	2	1			4	1	2	11
	不妊手術	2	5	16	26	27	13	20	36	15	8	168
	その他							1				1
	計	30	33	46	52	61	47	49	70	53	43	484

第13表 外来その他（2）

	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	計
泌の正常	147	70	62	128	38	107	92	54	101	213	1012
皮膚科		34	24	23	21	8	18	18	18	8	172
他科疾患	12	12	35	27	13	23	12	16	12	17	179
不明		5	17	8	17	11	11	14	16	25	124
重複例		72	47	38	71	40	38	63	60	47	476
計	159	193	185	224	160	189	171	165	207	310	1963

第14表 入院患者主要疾患

年度 疾患	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	計
腎結核	7 (10.7%)	13 (13.3%)	20 (24.3%)	14 (15.1%)	20 (19.9%)	22 (20.6%)	20 (17.3%)	11 (9.1%)	14 (8.2%)	24 (10.6%)	165 (13.9%)
尿路結石	19 (28.8%)	16 (16.3%)	14 (17.1%)	28 (30.1%)	30 (28.6%)	22 (20.5%)	29 (25.2%)	23 (19.1%)	35 (20.7%)	48 (30.1%)	264 (22.4%)
腎結石	5	8	3	7	11	7	10	7	10	10	78
尿管結石	6	5	8	16	17	14	15	14	23	32	150
膀胱結石	7	3	3	5	2	1	4	2	2	6	35
尿道結石	1										1
膀胱腫瘍	2 (3.0%)	6 (6.1%)	5 (6.1%)	3 (3.2%)	5 (4.8%)	9 (8.4%)	3 (2.6%)	15 (12.4%)	12 (7.1%)	15 (6.5%)	75 (6.3%)
前立腺腫瘍	8 (12.1%)	6 (6.1%)	7 (8.5%)	9 (9.7%)	11 (10.4%)	11 (10.2%)	11 (9.6%)	12 (10.0%)	12 (7.1%)	24 (10.6%)	111 (9.4%)
前立腺肥大症	8	6	6	8	10	11	11	9	11	22	102
前立腺癌			1	1	1			3	1	2	9
遊走腎		5 (5.1%)	2 (2.4%)	4 (4.3%)	4 (3.8%)	3 (2.8%)	2 (1.7%)	4 (3.3%)	4 (2.3%)	8 (3.5%)	36 (3.1%)
水腎症	1 (1.5%)	1 (1.0%)	1 (1.2%)		6 (5.7%)	8 (8.4%)	8 (7.0%)	2 (1.7%)	8 (4.6%)	2 (0.8%)	37 (3.1%)
入院患者数	66	98	82	93	105	107	115	120	169	226	1181

第4図 入院患者主要疾患実数

第5図 入院患者主要疾患の入院疾患に対する百分率

第15表 入院腎及び尿管疾患患者数

	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	計
腎結石	5	8	3	7	11	7	10	7	10	10	78
尿管結石	6	5	8	16	17	14	15	14	23	32	150
腎結核	7	13	20	14	20	22	20	11	14	24	165
水腎症	1	1	1		6	8	8	2	8	2	37
腎腫瘍	1	1		2	1	3	2	2	5	3	20
腎盂腎炎						1		1	3	1	6
腎出血	1	1				3	4	1	2	5	17
重複腎盂尿管						1		1		1	3
嚢胞腎					1						1
水尿管						1			2		3
膿腎症			1			1	1				3
尿管狭窄							1	2			3
無尿症		1			2					2	5
遊走腎		5	2	4	4	3	2	4	4	8	36
馬蹄腎				1		1					2
尿管腔瘻		1	3	2	1		3	1	3	2	16
腎外傷	1	1									2
腎周囲水瘤	1			1				1			3
尿管瘤			1						1		2
腎十他側尿管結石				1						1	2
腎十同側尿管結石								2		2	4
尿管子宮瘻							1				1
腎別後瘻								1			1
尿管周囲膿瘍										1	1
腎周囲膿瘍										1	1
腎・尿管・膀胱乳頭腫										1	1
尿管瘻					1						1
尿管直腸瘻					1					1	2
尿管癌						1					1
尿管閉塞(圧迫)					1			1			2
	23	37	39	48	66	66	67	51	75	97	569

第4及び第5図はこれら入院患者主要疾患の実数及び入院患者数に対する百分率を示したものである。

即ち腎結核患者は実数では1953年7例であるが1962年には10年間で最高を示し24例と増加している。しかし入院患者に対する百分率は1955年をピークとし、1953年10.7%, 1955年24.3%, 1962年10.6%と減少している。10年間の総計は165例13.9%を示した。

尿路結石患者は年々増加してあり1962年は48例30.1%と最高を示した。

膀胱腫瘍患者は1953年2例3.0%より漸増し、1962年

には15例6.6%であつた。

前立腺腫瘍患者も膀胱腫瘍とほぼ同じ傾向を示し、1953年8例12.1%より1962年の24例10.6%となり10年間に111例9.4%であつた。

遊走腎及び水腎症患者については特に著明なことはない。

2. 腎及び尿管疾患

腎及び尿管疾患については第15表に示す如くであり、この中腎結核については前述した。

特に腎及び尿管結石が多く中でも尿管結石の増加が目

第16表 入院膀胱疾患患者数

	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	計
膀胱腫瘍	2	6	5	3	5	9	3	15	12	15	75
結石	7	3	3	5	2	1	4	2	2	6	35
膀胱炎		2	1			2	2		2	9	18
結核	1				16	2				1	20
膀胱直腸瘻	1									1	2
膀胱腔瘻			2	1	1				1		5
膀胱出血	2				1	2			1		6
萎縮膀胱	1				1						2
膀胱周囲炎			2			1		1		2	6
膀胱異物				1							1
神経症											
腎切除後膀胱結核	1	2	1								4
肉腫								1			1
巨大膀胱					1						1
	15	13	14	10	27	17	9	19	18	34	176

第17表 入院尿道疾患患者数

	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	計
尿道狭窄		1	2	1	2		2	4	4	5	21
外傷	1	1		1	1	1		2	1	1	9
腫瘍	1		1						2	1	5
カルンケル								2	2	1	5
周囲膿瘍	1	1		1	1		1	1	1	1	8
淋病	1				1						2
結石	1										1
弁膜症									1		1
下裂									1	2	3
直腸瘻								2			2
外尿道口癒着			1							2	3
瘻			1								1
後部尿道炎										1	1
計	5	3	5	3	5	1	3	11	12	14	62

第18表 入院男性性器疾患患者数

	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	計
前立腺肥大肥	8	6	6	8	10	11	11	9	11	22	102
前立腺癌			1	1	1			3	1	2	9
前立腺結核						1	1		2	1	5
副睪丸結核	8	18	1	6	3	6	3	1	4	3	53
副睪丸炎			5	5	4	4	3	1	1	1	24
前立腺炎	1	1		1					1	2	6
前立腺結石										2	2
睪丸腫瘍	1	1	1		1	2	1	1			8
睪丸壞疽					1					1	2
睪丸炎						1					1
精囊炎		4	1	2	1						8
精液水瘤										2	2
陰囊水腫		2	1	1	1	1	1	2	2	2	13
精索静脈瘤										2	2
睪丸捻転症			1				1	2	1		5
陰囊壞疽			1								1
睪丸外傷								1			1
精囊結核									1		1
副睪丸剔出後瘻				1							1
前立腺膿瘍										1	1
包 莖			1				1		2	5	9
停留睪丸							3	2	2	2	9
持續勃起症			1				1			1	3
計	18	32	20	25	22	26	26	22	28	49	268

第19表 入院機能障害患者数

	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	計
尿 閉	1	4	1	1	1			4	2	1	15
乏 尿		1									1
尿失禁										2	2
排尿困難								1	9	7	17
奇異性尿失禁										3	3
蛋白尿										1	1
腰 痛							2	1	1	2	6
尿毒症						1					1
腹 痛						1					1
計	1	5	1	1	1	2	2	6	12	16	47

第20表 入院他科疾患患者数

	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	計
他科疾患			2		2				1	8	13

第21表 腎に対する手術

手術名	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	計
腎尿管剔除術								3	6	14	23
腎剔除術	8	13	20	17	21	30	21	8	6	5	149
腎部分切除術									1	1	2
腎瘻術		1	1		6	17	8	7	3		43
腎切石術		1	3	2	5		8	2	4		25
腎盂切石術	2	3	3	3	2	3	2	4	9	13	44
腎固定術		7	2	5	4	4	4	2	5	9	42
腎盂尿管形成術					2	1	1		1	1	6
腎周囲膿瘍切開術										2	2
計	10	25	29	27	40	55	44	26	35	45	336

立つ。

3. 膀胱疾患

膀胱腫瘍は最も多く、これについては既述した通りである。その他は特に著明な事はない。(第16表)

4. 尿道疾患

第17表の如く尿道狭窄及び尿道外傷が平均して多い。

5. 男性性器疾患

前立腺腫瘍が圧倒的に多いがこれについては前述した。その他副睾丸結核、副睾丸炎、陰嚢水腫、停留睾丸及び睾丸腫瘍が比較的多い。(第18表)

6. その他の疾患

機能障害及びその他の疾患に於いては尿閉、排尿困難が多いがその他は特記すべき事はない。(第19表、第20表)

IV. 入院患者に施行せる手術術式

過去10年間の入院患者は総数1181名、手術施行例は741名、即ち入院患者の62.7%に手術を施行した。手術回数は883回であった。

先ず腎については第21表の如くて、その主なものは腎

第22表 臓器別手術回数及びその全手術回数に対する百分率

	手術回数	全手術回数に対する百分率
腎に対する手術	336	38.0%
尿管に対する手術	186	21.1%
膀胱に対する手術	121	13.7%
前立腺に対する手術	80	9.1%
性器及び尿道に対する手術	142	16.1%
その他	18	2.0%

別 149、腎盂切石術44、腎瘻術43、腎固定術42回である。

腎に対する手術回数は全体で336回、総手術回数の38%を占めている(第22表)。各手術回数は年次的に増加しているが何れも特徴的な増減はない。腎剔除術は1960年以降急激に減少しているが代りに腎尿管剔除が増加し両者を加えれば各年次共に平均した手術回数を占めている。

尿管に対しては第23表の如く尿管切石術99、尿管膀胱新吻合術32、尿管形成術22、尿管瘻術21と続き、この群にしても年次的に手術回数は増加しているものの一術式

第23表 尿管に対する手術

手術名	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	計
尿管切石術	7	4	9	11	13	12	9	11	15	8	99
尿管膀胱新吻合術			5	4	2	5	7	3	1	5	32
尿管腸吻合術		5	3		1			1	1		11
尿管形成術			2	3	4	4	2	2	5		22
尿管瘻術		1	1	4	2	3		4	4	2	21
腎盂—腸管—膀胱吻合術									1		1
計	7	10	20	22	22	24	18	21	27	15	186

第24表 膀胱に対する手術

手術名 \ 年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	計
膀胱全剔除術		3	1	1	1	2		2	2	1	13
膀胱部分切除術	1		3	1	1	3		4	4	6	23
膀胱腫瘍切除術	1	3	1		2	1					8
膀胱瘻術	1		3		2		1	3	5	4	19
膀胱切石術	6	2	2	2	2	1	2	1	1		19
膀胱碎石術	1	1	2					1	1	4	10
TUC	1	1						2	5	6	15
膀胱周囲膿瘍切開術			1			2		1		2	6
膀胱高位切開術			1	2		1					4
膀胱憩室剔除術	1									1	2
廻腸膀胱造設術		1	1								2
計	12	11	15	6	8	10	3	14	18	24	121

第25表 前立腺に対する手術

手術名 \ 年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	計
前立腺全剔除術									1		1
前立腺剔除術	6	4	4	6	9	8	8	6	9	17	77
前立腺結石除去術										1	2
計	6	4	4	6	9	8	8	6	10	18	80

第26表 性器及び尿道に対する手術

手術名 \ 年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	計
副睾丸剔除術	7	15	6	11	7	7	6	2	5	4	70
除辜術	1	4	5	1	2	2	1	2	2	7	27
除囊水腫根治術		2	1		1	1			1	3	9
辜丸固定術							2	1	2	1	6
精索静脈瘤手術			1							2	3
精液瘤剔除		1								2	3
精囊剔除術		3	1	1							5
辜丸廻転整復							1				1
精管吻合術					1			2			3
尿道形成術	1					1	1	3	2	2	10
尿道下裂索切除										1	1
尿道腫瘍切除			1								1
尿瘻閉鎖術			1	1							2
陰茎切断術								1			1
計	9	25	16	14	11	11	11	11	12	22	142

第27表 その他の手術

手術名 \ 年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	計
尿管腔瘻手術				1			1		1	2	5
膀胱腸瘻手術										1	1
膀胱腔瘻手術			1	1					1		3
尿道直腸瘻手術										1	1
試験開腹術		1	2		2	2					7
			1								1
計		1	4	2	2	2	1		2	4	18

第28表 主要手術回数とその百分率

手術名 \ 年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	計
腎・腎尿管別出術	8 (18.2%)	13 (17.0%)	20 (22.4%)	17 (22.1%)	21 (22.8%)	30 (27.3%)	21 (23.6%)	11 (14.1%)	12 (11.5%)	19 (14.8%)	172 (19.5%)
腎・腎盂・尿管切石術	9 (20.5%)	8 (10.5%)	15 (16.9%)	16 (20.8%)	20 (21.7%)	18 (16.3%)	19 (21.3%)	17 (21.8%)	28 (26.9%)	18 (14.1%)	168 (19.0%)
前立腺別出術	6 (13.6%)	4 (5.3%)	4 (4.5%)	6 (7.8%)	9 (9.8%)	8 (7.3%)	8 (9.0%)	6 (7.7%)	10 (9.6%)	17 (13.2%)	78 (8.8%)
膀胱全別出術		3 (3.9%)	1 (1.1%)	1 (1.3%)	1 (1.1%)	2 (1.8%)		2 (2.6%)	2 (1.9%)	1 (0.8%)	13 (1.5%)
膀胱部分切除術	1 (2.3%)		3 (3.4%)	1 (1.3%)	1 (1.1%)	3 (2.7%)		4 (5.1%)	4 (3.8%)	6 (4.6%)	23 (2.6%)
腎固定術		7 (9.2%)	2 (2.2%)	5 (6.5%)	4 (4.3%)	4 (3.6%)	4 (4.5%)	2 (2.6%)	5 (4.8%)	9 (7.0%)	42 (4.8%)
腎盂尿管・尿管形成術			2 (2.2%)	3 (3.9%)	6 (6.5%)	5 (4.5%)	3 (3.4%)	3 (3.8%)	6 (5.8%)	1 (0.8%)	31 (3.5%)
手術回数	44	76	89	77	92	110	85	78	104	128	883

についての目立つた増減はない。全体としては 186回で総手術回数の21.1%である。

膀胱に関しては第24表の如く手術回数の多いものを挙げれば膀胱部分切除術23、膀胱瘻術19、膀胱切石術19、膀胱全別出術13と続いている。1958年以前は小なる膀胱腫瘍に対し膀胱腫瘍切除術を多く行っているが、1960年以降は膀胱部分切除術がこれに代っている。膀胱全別出術は各年次共平均した数値を示している。膀胱切石術は最近減少して来ている。尿路結石手術については、腎盂切石、尿管切石術が増加傾向にある。膀胱に対しては121回で総手術回数の13.9%に当る。

前立腺疾患手術については、第25表の如く前立腺別出術が主要手術であり年々増加している。前立腺手術は全体で80例、総手術回数の 9.1%を占めている。

性器及び尿道に対する手術は第26表の如く副辜丸別出術70、除辜術27が目立っているが副辜丸別出術は減少の傾向にある。尿道形成術は10例であるが施行した年度は

第 6 図 主要手術実数

第7図 主要手術の手術回数に対する百分率

最近の5年間に集中している。その他の手術は第27表に示す如くである。

次に主要手術の回数とその百分率を図示すれば第28表、第6図及び第7図である。

腎尿管剔除術は手術実数では1958年の30回をピークにその前後に急激に減少しているが、これを百分率より見れば1953年以降漸次増加し、1958年の27.3%をピークに急激に下降している。

腎切石術、腎盂切石術、尿管切石術は実数に於ては増加し、1961年28例と最高となり1953年の3倍に達しているが、百分率より見れば比較的増加率は低い。前立腺剔除術は1953年6例(13.6%)で、実数に於ては少いが百分率からみれば最高値である。その後は5~10%前後で1962年に至り17例(13.2%)となつている。

膀胱全剔除術は年間1~3例で各年次共に平均している。また膀胱部分切除術は漸次増加の傾向を示す。

以上増加傾向にあるものは前立腺剔除術、膀胱部分切除術、腎、腎盂、尿管切石術の他尿路形成術があり、減少している手術としては腎剔除術、副睾丸剔除術、膀胱切石術等である。

V. 総括並びに結論

1953年より1962年迄の10年間に名古屋市立大学泌尿器科教室における外来患者、入院患者及び入院手術術式についてその推移を観察した。

A. 外来患者

1) 10年間の外来患者総数は10062名で、男子6552名、女子3510名で、男女の比は1.87:1である。

2) 尿路性器結核は1953年5.8%を占めていたが、1962年は2.2%に減少している。

3) 尿路結石症は1953年7.7%であつたが、1959年より増加し1962年は11.2%である。

4) 非結核性膀胱炎は1953年13.7%、1962年には23.2%と著しく増加している。

5) 膀胱腫瘍は1953年1.2%、各年次共平均し1962年には1.7%であつた。

6) 淋疾関係患者は1953年6.2%を占めていたが1962年には0.8%と激減している。

7) 前立腺腫瘍は1953年3.1%、1962年3.0%で各年次共平均し10年間の平均値は3.1%である。

8) その他の疾患では単純性尿道炎の著明な増加が目立つた。

B. 入院患者

10年間の入院患者総数は1181名で、主要疾患である腎結核、尿路結石、膀胱腫瘍、前立腺腫瘍患者の推移は年次的に殆どみられず各年次共平均している。

C. 入院手術術式

10年間に於ける入院手術を受けた患者数は741名で、その手術回数は883回であり、その主なる手術回数は、腎・腎尿管剔除術172回19.5%であり、腎・腎盂・尿管切石術168回19.0%、前立腺剔除術78回8.8%、膀胱全剔除術13回1.5%、膀胱部分切除術23回2.6%、腎固定術42回4.8%、腎盂尿管・尿管形成術31回3.5%である。

(昭和38年11月30日受付)